



# 地域ボランティア プログラム 「事前学習Ⅱ」

2016/9/28

## 地域ボランティアプログラム「事前学習Ⅱ」

9月28日（水）、南大沢キャンパス1号館104教室にて、地域ボランティアプログラムの「事前学習Ⅱ」を実施しました。この事前学習では、地域ボランティアプログラムで取り組むことになる「里山保全」活動について、里山に関する知識や課題、またこの地域の歴史や現状等について、本学の加藤英寿先生と連携団体である「ひなた緑地遊学会」の北出さんよりお話ししていただきました。

### 講義の様子

前半は加藤先生より、ご自身が首都大の「松木日向緑地」に関心をもった経緯の話の後に、緑地が今抱える課題や、緑地の竹林化の流れ、これまでの先生の取組についての説明がありました。首都大移転前は、緑地は地域の住民によって活用され、多様な生態系があったそうです。しかし、大学移転後は緑地に人の手が届かなくなり、森が放置され続けた結果、竹林が広がり、その生態系に危機が生じているとのことでした。

そうした現状に対し、地道な取組を続けてこられたこと、そしてより発展的・継続的に解決を図るために里山保全の支援団体を立ち上げ、ひなた緑地遊学会と連携を始めたことなどをお話しいただきました。また、解決にあたっては竹をただ取り除くだけではなく、その竹を竹粉堆肥や竹炭にするなど、活用することを念頭に置いて取り組んでおられることもお話しいただきました。

後半は、松木日向緑地の整備に取り組む地域のボランティア団体である「ひなた緑地遊学会」の代表の北出さんにお話しいただきまし

た。北出さんは、首都大がこの南大沢に移転するより前から南大沢に住んでおられる方で、前半は「ボランティア活動を始めたきっかけや遊学会の設立経緯」について、後半は「南大沢地域が抱える課題」について話してくださいました。

前半のボランティア活動を始めたきっかけのお話では、ご自身の緑地保全ボランティア活動への思いを語ってくださいました。後半のお話では、南大沢地域において児童数が減り、単身高齢者が増加していること、そして緑地保全を通して多世代の地域住民と関わる価値について、お話しいただきました。

### 講義を終えて

参加者からは、今回の講座について以下のような感想が挙げられました。

- ・里山保全に関心をもって参加したが、この地域の現状と課題を知り、活動を通じて地域の多世代交流にも注目したいと思った。
- ・社会人になってからも、仕事に専念するだけでなく、何かしら地域に関わる方法を見つけられるといいと思った。
- ・北出さんの話を聞いて、地域のためにボランティアとして自分ができることを求めて行動を起こしていくのは大切なことだと思った。自分自身も何か「核」をもって、この活動に参加したい」

里山や南大沢地域の課題を知り、その解決のために様々な取組がなされていることを学んだことで、プログラム参加者は、これからの活動に向けて、一層モチベーションが高まったようです。



講師を担当して下さった加藤先生（左）と北出さん（右）

講義終了後は、学生たちが「講義を受けて感じたこと、考えたこと」などを発表しました。お二人はそれを聞いたうえでアドバイスや感想等を述べてくださいました。



### 学生たちの様子

3時間以上の長丁場となりましたが、参加した学生たちは最後まで集中を切らず、講師の方々のお話を真剣に聞き、意見を出し合っていました。